

障害のある子どもの教育に関する情報提供体制の充実をめざして

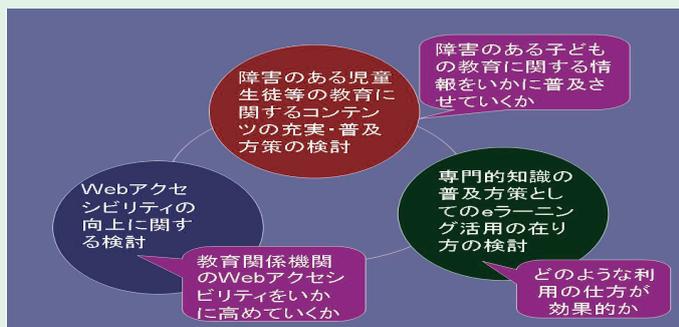
【研究のねらい】

障害のある子どもの教育に関する情報の普及は、障害のある子どもの教育を充実させていく上で重要な課題のひとつです。本研究では、研究所における障害のある子どもの教育に関する情報普及の改善・充実に資する取り組みを行いました。

【研究の概要】

本研究では、次の研究課題について検討を行いました。

- ① 障害のある子どもの教育に関する情報提供体制についての検討
- ② Webアクセシビリティの向上に関する検討
- ③ eラーニングの活用に関する検討



【研究結果】

○ 障害のある子どもの教育に関する情報の提供状況

都道府県と政令指定都市の教育委員会及び教育センター等のWebサイトについて調査したところ、トップページに障害のある子どもの教育に関する項目がある機関は、平成18年度調査において、教育委員会の56.9%、教育センター等の75.0%となっていました（図1）。障害のある子どもの教育に関する情報をより一層普及させていくために、今後これらの機関のWebサイトにおいて、障害のある子どもの教育に関する項目がわかりやすい場所に置かれることが重要です。

○ 学校支援情報の提供状況

学校支援情報の提供状況については、平成17・18年度ともに、教育委員会のWebサイトでは障害理解・支援情報が最も多く、教育センター等では、障害理解・支援情報が最も多く、次いで教材・教具情報となっていました。教育委員会や教育センター等のWebサイトにおいては、これらの情報提供の取り組みが行われるようになってきています。

○ Webアクセシビリティ

アクセシビリティ点検ソフトを使って、都道府県と政令指定都市の教育委員会及び教育センターのWebサイトのアクセシビリティを調査しました。指摘されたアクセス上の問題の数とその種類を分析したところ、1ページ当たり10～40個の問題があるサイトが多かったこと、指摘頻度の高かった問題は文字のサイズ・フォント・色の固定であることが明らかになりました。今後これらについての対応が求められます。

○ eラーニングの活用

eラーニングの活用については、情報教育を担当している教員を対象としたモデル講習会と盲ろう児童生徒担当教員を対象に実施したモデル講習会において、活用の取り組みを行いました。eラーニング活用のメリットとしては、事前に講習会の内容を学習できること（図2）、電子会議室によりフォローアップができることなどが挙げられます。これらのメリットを活かして、研修における適切な場面で活用していくことが重要です。

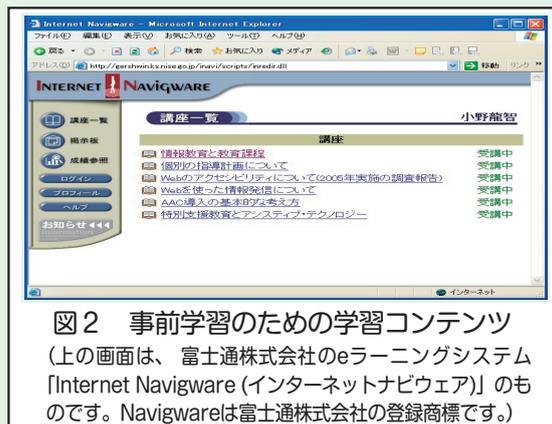
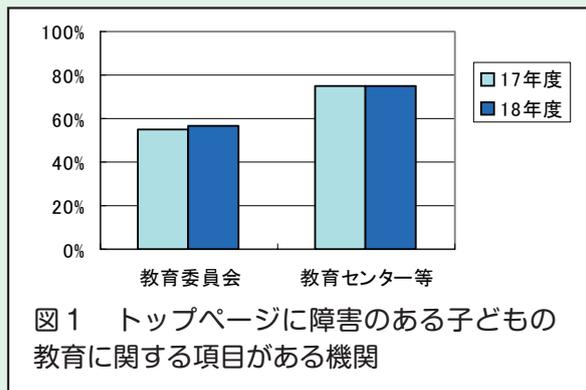


図2 事前学習のための学習コンテンツ
（上の画面は、富士通株式会社のeラーニングシステム「Internet Navigware（インターネットナビウェア）」のもので、Navigwareは富士通株式会社の登録商標です。）

【研究結果からの提言】

○情報提供における役割分担と連携

教育委員会と教育センター等のWebサイトによる情報提供については、今後、これらの機関の情報提供における役割分担を一層明確にし、相互に補完し合うような情報提供を行うことが、効率的に情報提供体制を整備していく上で重要です。

○特別支援学校のWebサイトからの情報発信の活性化

特別支援学校には、地域のセンター的機能を果たすことが求められており、学校のWebサイトにおいても、地域のセンター的機能を果たすための情報提供が求められます。そのため、学校のWebサイトからの迅速・適切な情報発信を可能にするための校内体制作りが重要です。また、情報発信を活性化するためには、Webサイトに掲載する情報の更新について、全職員が積極的に関わっていくことが大切です。

【研究結果の活用】

○研究所における情報普及の改善・充実

本研究の結果は、研究所における情報普及の改善・充実のための基礎資料となります。

○教育関係機関のWebサイトからの情報発信の充実

教育関係機関のWebサイトからの情報発信をどのように充実させていけばよいかを検討する際に、参考資料となります。

○教育関係機関のWebサイトのアクセシビリティの向上

教育関係機関においてWebサイトのアクセシビリティを向上させていく上で参考資料となります。

○研修における活用

さまざまな研修プログラムにおいてeラーニングを活用する際の参考資料となります。

【関連情報】

(1) 研究成果報告書

研究成果報告書は、次のような構成となっています。

第1章 研究の目的及び概要

第2章 障害のある子どもの教育についての情報提供体制に関する検討

第3章 盲・聾・養護学校のWebサイトからの情報発信の活性化に関する検討

第4章 Webアクセシビリティの向上に関する検討

第5章 eラーニングの活用の在り方に関する検討

第6章 まとめと今後の課題

資料 PDF文書のアクセシビリティ

(2) 研究課題のページ

本研究については、下記の研究所Webサイトに掲載されています。

http://www.nise.go.jp/blog/2005/08/post_606.html

本リーフレットは、研究所で行った次の研究を基に作成しています。

【研究課題名】

調査研究「障害のある児童生徒等の教育の総合的情報提供体制におけるコンテンツの充実・普及方策に関する実際研究」(研究期間：平成17年度～平成18年度)

【研究組織】

研究代表者 渡邊 章

研究分担者 中村 均・小野龍智・太田容次
中澤恵江・渡辺哲也・滝川国芳
新井千賀子

【問い合わせ先】

メールアドレス akira@nise.go.jp

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 (National Institute of Special Needs Education; NISE)
〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5-1-1 TEL:046-839-6806 URL:<http://www.nise.go.jp/>